

感覚からみるインド世界

—動物・生業・芸能—

日時 10月28日(日) 13:00~17:30

場所 京都大学稲盛財団記念館 3階大会議室

(京阪線神宮丸太町駅 出町柳方面出口より徒歩5分)

報告者

北田信 (大阪大学) 「絵画と旋律—音楽的細密画に描かれる鳥獣」

篠田隆 (大東文化大学) 「インドにおける家畜経済の展開と家畜観の変容」

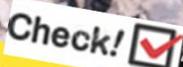
吉田亮人 (写真家) 「チベットの鳥葬とバングラデシュの皮革産業」

岩谷彩子 (京都大学) 「ヘビがもたらす感覚変容
—カールヘリヤーの旋回舞踊とその生活世界より—」

コメンテーター **小磯学** (神戸山手大学) **比嘉理麻** (沖縄国際大学)

全体/総合討論司会 **田中雅一** (京都大学) **石井美保** (京都大学)

内山田康 (筑波大学)



★インド古典音楽実演
タブラ奏者・藤澤バヤン氏とサロッド
奏者・北田信氏による**インド古典音楽**
実演も行われます(4時50分開演)

★吉田亮人氏 写真展同時開催
会場にて、バングラデシュやインドを
はじめ世界各地で取材をしてきた吉田
亮人氏の写真展を開催いたします。
Yoshida Akihito Web site <http://www.akihito-yoshida.com/>

道をゆく牛のいななきに砂ぼこり、祠から漂う強烈な薫香、電飾で彩られた寺院から響いてくる音——まさに五感をとおしてインド世界は私たちを魅了してきた。しかし公共空間の浄化と秩序立てのためあるにおいが「悪臭」化されるといったように、しばしば感覚変容を伴う根本的な変化も起きている。現地の人々が何を味わい、どんな音を聴きとり、意味をもたせ、どんなにおいに快/不快を感じているのか。

感覚とその変容を考えるにあたって、本シンポジウムではとりわけ動物に対する態度や動物を介した人と人の関係に焦点をあてる。インド世界において人々は、動物を対象化し資源として利用するのみならず、動物のコスモロジカルな表象やメタモルフォシスなどさまざまな関係を結んできた。本シンポジウムでは人々の生業や芸能、信仰などの生活文化における人と動物との接点を一つの切り口とし、そこでの人々の感覚経験とその変容を探求の対象とすることで、インド世界の文化的基層へ迫ると同時に、変貌しゆく南アジアの現在に迫る。

連絡先 nakamura@asafas.kyoto-u.ac.jp (中村)